

様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

2024年5月7日

大阪市長 殿

提出者

住所 大阪市東住吉区鷹合3-2-66

氏名 医療法人 橋会 東住吉森本病院

理事長 森本 義彦

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 06-6606-0010

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	医療法人 橋会 東住吉森本病院
事業場の所在地	大阪市東住吉区鷹合3-2-66
計画期間	2024年4月1日～2025年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	83:医療業
②事業の規模	329床
③従業員数	898人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>①各部署に回収箱の配布(施設管理) ②各部署で収納し蓋を閉じる。 ③蓋をした箱を一時保管庫(専用倉庫)まで運搬し保管、施錠する。 ④処理委託者が、施設管理立ち合いのもと搬出作業を行う。</p>

(日本工業規格 A列4番)

## (第2面-1)

## 特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

## 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2023年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	排出量	219.222 t	0.126 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	針刺し事故防止や感染予防の安全面を最優先するため、単純に排出抑制することは難しいが、これまでと同様に職員ミーティング等で感染性廃棄物の分別と適正処理の説明を行い、他の廃棄物との分別徹底を図りながら、極力、特別管理産業廃棄物の排出抑制に努めている。しかし新型コロナウイルスによる感染対策により、感染性廃棄物が激増した為、感染が終息すると排出量は軽減されると思われます。		
	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	排出量	220 t	0.15 t
	(今後実施する予定の取組) これまで通り継続して分別を徹底し、引き続き排出抑制に努め、廃棄物の排出方法の工夫による抑制の継続に努める。		

## 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	種類	取組
②計画	種類	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	取組	

## (第3面-1)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

		【前年度（2023年度）実績】		
①現状	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	
(これまでに実施した取組) <b>実施していない。</b>				
②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油	
②計画	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) <b>予定なし。</b>			

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

		【前年度（2023年度）実績】		
①現状	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	
②計画	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	(これまでに実施した取組) <b>実施していない。</b>			
②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油	
②計画	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) <b>予定なし。</b>			

## (第4面-1)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（2023年度）実績】			
特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油	
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	
(これまでに実施した取組) <b>実施していない。</b>			
【目標】			
特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油	
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	
(今後実施する予定の取組) <b>予定なし。</b>			

## 特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（2023年度）実績】			
特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油	
全処理委託量	219.222 t	0.126 t	
優良認定処理業者 への処理委託量	219.222 t	0.126 t	
再生利用業者への 処理委託量	t	t	
認定熱回収業者 への処理委託量	t	t	
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t	
(これまでに実施した取組) <b>産廃ネット等の業者情報を参考に、委託基準を遵守できる優良な産廃処理業者を選定し、定期的に処理状況の現地確認を実施している。</b>			

【目標】			
②計画	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	全処理委託量	220 t	0.15 t
	優良認定処理業者への処理委託量	220 t	0.15 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
現在の委託基準の中で、今後とも、優良な産廃処理業者を選定していきたい。また、委託処理業者に対しては、引き続き定期的な処理状況の現場確認を行う予定。			
【前年度（2023年度）実績】			
電子情報処理組織の使用に関する事項	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	219.348	t
	(今後実施する予定の取組等)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
  - 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
  - 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
  - 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条第4項第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
  - 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
  - 9 ※欄は記入しないこと。

(管理体制図)

